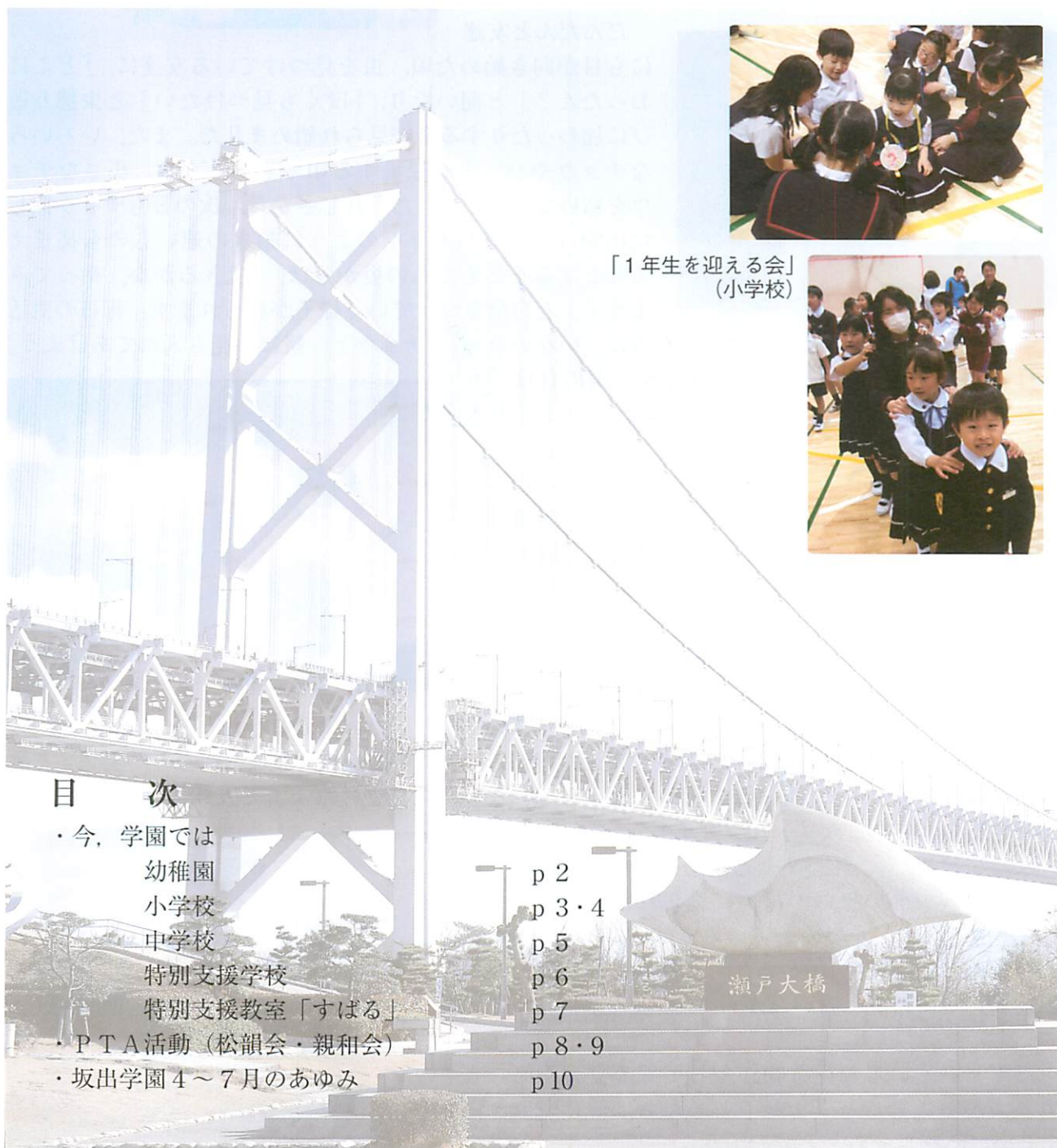


香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第51号

2015.7



「1年生を迎える会」
(小学校)



目次

- ・今、学園では
 - 幼稚園 p 2
 - 小学校 p 3・4
 - 中学校 p 5
 - 特別支援学校 p 6
 - 特別支援教室「すばる」 p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8・9
- ・坂出学園4～7月のあゆみ p 10



生き物となかよし



園内では春の訪れとともに、生命の息吹もめざましく、子どもたちは、園庭に住んでいるいろいろな生き物との出会いに興味を高めてきました。4、5月はダンゴムシやテントウムシのような小さな虫がいることに気づき、自分で見つけたといううれしさや、虫の動きのおもしろさを感じています。触ってみたい子、触るのはちょっと怖いけれどじっくり見たい子、先生に知らせたい子、とにかくたくさん捕まえたい子・・・虫への興味の示し方は様々ですが、それぞれに楽しんでいます。



だんだんと友達にも目が向き始めた頃、虫を見つけている友達に、「どこにおったん?」と聞いたり、「ほくも見つけたい」と虫捕り遊びに加わったりする姿が見られ始めました。また、いろいろなチョウやバッタが登場する頃でもあります。小さなチョウを初めて捕まえられたうれしさから、次の日もチョウ探しに出かけ、アゲハチョウのように動きの速いものも捕まえようとする子どもたちの姿からは、「できるかな、やってみよう!」と自信をつけていく様子が見られます。毎日の生活

の中で、だんだんと「朝ここにおったのに、いないな〜」「チョウと一緒に花も入れてあげよう」と自分なりに得るものがあるようです。雨の日は「カエルやカタツムリいないかな、探しに行こうよ」と水たまりをのぞきに行っています。

チョウを捕まえてから、逃げないようにそっと虫かごに入れるまでのドキドキ感。誰もそんな経験をしてきたのでしょうか。ある男の子が、頑張って捕まえたチョウをクラスの大きな虫かごに入れようとしていました。そんな様子を見かけた友達が、その子のところに行って、何も言わずに自分の腕をふたのすき間におきました。逃げないように腕ですき間をふさごうとしたのでしょうか。友達の優しさや思いやりが伝わるほのぼのとした一場面でした。



6月の終わりには、昨年カブトムシが生んだ卵から、土の中で幼虫、さなぎになり、羽化する瞬間を見た子どもたち。「生まれたばかりだから触らないで見るだけだよ」と友達同士で伝えたり、土の中から出てくるカブトムシに「オスかなメスかな」と楽しみにしたり、「これだよ」と図鑑を開いたり、それぞれのカブトムシへの思いが様々に見られました。また羽化後ひっくり返って足を動かしているカブトムシを「歩く練習しているんじゃない?」「かめきち(飼っている亀)みたいにお散歩したいね」と言いながら、「頑張れ頑張れ」と応援していました。

次々といろいろな生き物がやってくる夏の季節。セミの鳴き声が聞こえると、また子どもたちは新しい生き物との出会いに心躍らせることでしょう。



研究主題

対話を通した「思考力」の育成

—「育てるカウンセリング」を生かして、個々の考えを広げ深める授業づくり—

本校では、昨年度より子どもたちの関わりを研究の中心に据え、とりわけ、ことばを介した関わりである「対話」に焦点を当て、「思考力」の育成に取り組んでいます。その授業づくりでは、まず、対話の前提となる多様な考えを生むための教材や授業構成の工夫をしています。そして、対話が促進されるための支援については、集団を対象としながら発達課題の解決や成長の援助を目的とする「育てるカウンセリング」を手がかりにしています。

今年度の教育研究発表会は、1月28日（木）、29日（金）に行います。多数の先生方のご参加をお待ちしています。

研究授業

5年 体育科（保健）「心の声を聴こうー心の健康ー」

5年生の子どもたちは思春期にさしかかり、自分自身のこと、学校生活や友達に関すること等、さまざまな不安や悩みを抱えるようになります。そこで、心をすっきりさせるための方法を考えていくこととしました。

まず、子どもたちなりに方法を考えました。「家族に相談する」「散歩をする」等、いろいろ考えていく中で、自分に合った方法を見つけることが大切であると気付きました。そこで、自分を見つめ直すために「心マップ」を作成しました。この「心マップ」は、自身の心の成長をまとめたものです。自分を中心とした内側の円には、「話をするのが好き」「友達と協力できる」等、自分自身に備わっている能力や考え方・行動の特徴を、外側の円には、「友達」「お母さん」等、自分を支えてくれる周囲の人を書き込んでいます。それを基にしながら、「私はバレーボールをするよ。



【方法と理由を話し合う】

バレーボールが好きだし、体を動かすとすっきりするよ。」「〇〇さんは運動が得意だから合っているね。私は、お母さんに相談するよ。一番、私のことを分かってくれそうだからだよ。」等と話し合い、自分の好きなことや得意なことをすることで不安や悩みを小さくすることができることや、自分を支えてくれる友達や家族の存在があることにも気付き、それぞれに合った方法やそのよさを見つけることができました。



【自分に合う方法について考える】

5年 理科「探ろう！魚のたんじょうのひみつ」



【水の中の様子から考える】

メダカの様子や生きている自然環境の観察を基にしながら、メダカの食べ物について予想し、確かめようとなりました。

前時に子どもたちは、飼っているメダカと野生のメダカとの違いは何だろうという課題をもち、校内の庭園にある池で野生のメダカを観察しています。その観察を通して、「餌をやっていない野生のメダカは、何を食べているのだろうか」という疑問が生まれました。そして、「きっと水の中に食べ物があるはずだ」と考えました。そこで、本時では池の様子を再現した水槽を各班に配りました。

その様子を観察した子どもたちは、「動いている小さな生物がいるので、これを食べると思う」「この藻みたいなものを食べているのではないかな」と考えました。しかし、それらが水の中にいるからという理由だけで考えており、メダカの様子とつなぐことが難しいと予想されたため、飼っているメダカの動き（水中を泳ぐ、底石をつつく、水草に近づく）を動画で見せました。それを見ることで、「口をばくばくしながら泳いでいるのは小さな生物を食べているからだろう」「石や壁をつついてるのは、ついている藻のようなものを食べているのだろう」と池の中の様子とメダカの様子をつないで、理由を多様に考えて、対話が活発になりました。

さらに、予想した食べ物が合っているかを確かめるため、メダカに与えたときの様子を観察し、全体で話し合いました。「小さな生物を追いかけていって一口でばくっと食べたよ」「藻を食べていたけれど、はき出すこともあったよ」「藻の周りに付いているものだけを食べたのではないかな」等という意見が出され、子どもたちは「メダカは水の中の小さな生物や緑の藻を食べている」と捉えていきました。



【実際に食べるか観察する】

大学との共同研究

附属坂出小学校では、専門的な立場からご意見をいただき研究内容を深めるため、毎年香川大学教育学部の先生方をお迎えして、合同研究集会を行っています。今年度は、5月27日に6年社会科、7月8日に4年道徳の研究授業を行い、本校職員が通常行っているような授業討議にも加わっていただきながら、授業や研究内容についてご意見をいただきました。今回は、5月の合同研究集会の様子について、ご紹介します。

6年 社会科「競い合う二つの権力 - 武士の悲願とは何だったのか -」

わたなべ たくし
渡部 岳史

平安時代末期から鎌倉時代の「武士の世の始まり」は、朝廷が幕府へそのまま移行したと捉えがちですが、実際は朝廷と幕府が両立し、互いにせめぎ合った時代です。ここでは、力をつけてきた武士が、自分の土地を守ってくれる支配者を選びながら、徐々に武士の世が創られていったことを捉えていくことが大切です。

研究授業では、元寇によって力をつけたはずの鎌倉幕府がなぜ滅びたのかを考えました。



まず、滅びた理由として、「北条氏が武士たちの信頼を失ったから」という予想が多く出ました。その後、平清盛、源頼朝、承久の乱での北条氏について繁栄や滅亡の様子をまとめた「栄枯盛衰図」を用いて、鎌倉幕府が滅びた原因を探っていました。自力解決した後の話し合いでは、「平清盛のように北条氏が一族のことしか考えなかった」や、源頼朝とつないで「跡継ぎがいなくなったのでは」など多くの意見が出ましたが、「源頼朝と承久の乱時には、御恩と奉公の関係があったが、それが崩れたのが大きな原因ではないか」という意

見にまとまっていきました。ただ、その中で「元寇は相手が外国だったから、土地を与えられないのは仕方がない」という北条氏擁護の考えもありました。そこで、元寇前から元寇後にかけての北条氏の勢力図を提示しました。土地を分け与えて勢力は弱まったと考えていましたが、実際は一気に勢力を広げたという資料を見て、「ずるい」「そんなにあるんだら、分け与えればいい」といった意見が多くありました。

その後、このような不満をもった武士たちがどうしたかを話し合いました。そして、平氏に不満をもった武士たちが源氏に流れたように、この時代は武士たちが土地を守ってくれる人を支配者として選んでいた時代だったことを捉えていきました。

研究授業と授業討議には、香川大学より佐藤明宏先生、山岸知幸先生、岡田涼先生、山本木ノ実先生の4名に来ていただき、現職の大学院生2名を加え6名の方に参加していただきました。



授業討議では、前半の対話について、「栄枯盛衰図」を基にしながら立場や時間を広げて考えることができているものの、「子どもの必要感を大切にしながら、資料を渡すタイミングを考えたい」とのご意見がありました。また、後半の対話について、「北条氏の勢力図に子どもが驚き、滅んだ理由について前のめりになって話し合っていた」といった資料の効果的提示についてのご意見もいただきました。

大学の先生方からは、「育てるカウンセリング」の理論的な背景や対話スキルの系統性等について質問があり、研究部長より説明をしました。また、「子どもが話し合いたいという意欲をもつためには、雰囲気だけでなく教材そのものにも興味をもつことも大切である」「スキルの重視が本校の特徴であり、よさでもあるが、それを子どもが身に付けるための支援が求められる」「子どもどうしのリレーションを確立し、安心して授業に臨めるようにしたい」等の貴重なご意見をいただきました。今後の研究に生かしていきたいと考えています。

「学ぶこと」と「生きること」をつなぐ「ものがたり」

総合学習シャトルが新しくなりました



これまで、総合学習シャトルは総合学習CANにおける探究学習に必要なスキルを学ぶ場として実施してきました。昨年度は、校歌についての探究結果をまとめたものが「第6回 北九州市子どもノンフィクション文学賞選考委員特別賞『那須正幹賞』」を受賞するなど評価も得ました。

しかし、シャトルで学んだスキルが、CANの探究スキルへとつながったという生徒の意識がまだまだ低いのではないかと、CANの探究時間が短いのではないかと、という課題も浮かび上がりました。

そこで、本年度はシャトルを今まで以上にCANにつながる探究スキルが身に付くような学習にするため、各クラスターの探究課題を分析し、「実験」「創造」「調査」の三分野に分かれた新たな講座を開発したり、探究過程の中でお互いを高め合うような「批判的な読みや問い」ができる場を組み込んだりしました。

また、もう一つの課題であるCANの探究時間を確保するため、昨年度までの「基礎編」・「実践編」を統合して「一般講座」としました。「一般講座」「特設講座」に分けることで、探究の仕方をより確実に習得できるよう工夫している点や、教科を総合した探究的な学びの場であるとの構えを全面に打ち出した、異教科の教師ペアが担当している点は昨年度と同様です。この新しい総合学習シャトルによって、一層学ぶことや探究することの楽しさを知り、一人一人が自立した学習者として学び続けてくれることを期待しています。

一般講座（8時間）

『実験』分野 講座名「変数の扉」

探究活動で必要となる、変数への着目の仕方や変数制御の方法を習得しながら、自ら実験を計画しました。ストローロケットの性能を向上させるための実験を通して、データを批判的に思考したり、複数回とったりすることの大切さを学びました。



『創造』分野 講座名「附坂中 劇的ピフォーアフター ～みんなで匠になろう～」

学校に必要なものや足りないものを探し、なぜそれが必要なのか、それを作るにはどのくらいの期間・費用が必要かを考え、企画書を作成しました。また、それぞれの企画書を分析し、見直した上で、実際に必要なものや足りないものを創作しました。



『調査』分野 講座名「じゃんけん必勝法」

じゃんけんの必勝法の真偽について実際に調査を行いました。必勝法の真偽を明らかにするためには、どれくらいの人に、また、どんな人を対象にじゃんけんを行うのが適切かを検証したり、お互いに行った調査方法を批判的に検証したりしました。





附属特別支援学校には、会議室、調理室、風呂場、和室等を備えた、宿泊が行える生活訓練棟「やまもの家」があります。この建物を利用して、児童生徒は宿泊学習に取り組んでいます。



小学部の取組

小学部では、1年生から6年生まで全員で毎年、1泊2日の宿泊学習を行っています。今年は、6月11日・12日に実施しました。

1日目は夕食作りのための買い物学習と調理実習。夕食メニューは、カレーか焼きそばのどちらかを選択して、自分が選んだメニューの調理にチャレンジ。自分で買い物してきた食材を、手順表を確かめながら慎重に調理しました。協力しておいしい夕食が出来上がりました。夜は花火大会で盛り上がりま



しました。2日目は、朝食作りや、荷物整理、清掃に取り組みました。今まで学習してきたことを生かして、自分の役割を責任をもって果たしました。みんなで寝泊まりする楽しい思い出作りと自立に向けた生活スキルの向上が実感できる宿泊学習でした。

中学部の取組

1年生は6月に校内で1泊の宿泊学習を行い、学部全員で7月に観音寺市豊浜コミュニティセンター「海の家」周辺でキャンプを行いました。1年生の宿泊学習では、事前学習で夕食の鍋料理の種類や食材を選び、宿泊当日の食材の買い物では、電子マネーを使った支払いを経験しました。



7月のキャンプでは、事前学習で3

年生を中心にグループ名やスタンツ、夕食の鍋料理の種類を考えました。当日の夕食作りは「鍋1グランプリ」と称したグループ対決で、1年生も宿泊学習での経験を生かし、積極的に取り組むことができました。仲間と協力し、共に活動することの楽しさを感じた1泊2日になりました。

高等部の取組

今年度はクラスごとに話し合っ時間と予算を考えながら宿泊校外学習を計画しました。琴平や宇多津、高松などに出かけ、夕食を済ませ計画通り19:00前後に本校宿泊施設「やまもの家」に帰ってきました。校外学習で仲間と楽しく遊んだり、おいしいものを食べたりした後は「小遣い帳」の整理です。予算通りに考えて使えたか、残金は合っているかなど『小遣

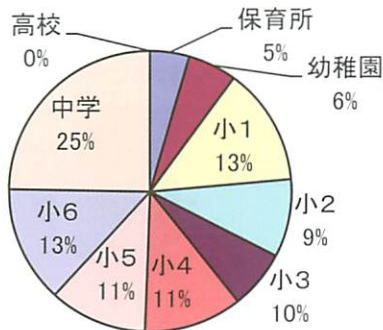


い管理』につながる学習も取り入れています。普段、一人ではおっくうなことも友達と取り組めるのは宿泊学習ならではのです。一緒にお風呂に入り、床に着きながら「今度は〇〇行きたいね」と次につながる話が出たことは言うまでもありません。

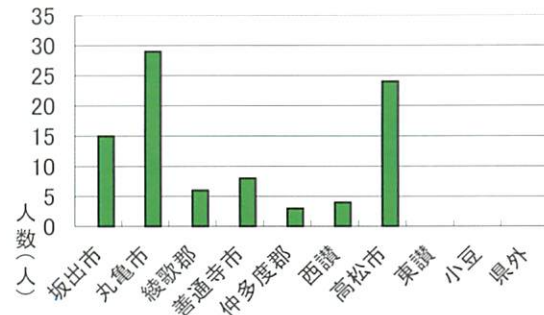


特別支援教室「すばる」利用状況

平成26年度の特別支援教室「すばる」の申込件数ならびに個別指導・教育相談等の実施状況についてご報告します。申込件数は89件、個別指導回数は、第1期から第3期合計で549回でした。教育相談回数は、電話相談を含め103回でした。校種・学年別、地域別申込状況は下記のグラフに示した通りです。



校種・学年別申込件数



地域別申込件数

特別支援教室「すばる」新スタッフ紹介

特別支援教室「すばる」のスタッフは、香川大学教育学部特別支援教育講座の教員と小学校・中学校・特別支援学校の教員で構成されています。

今年度、「すばる」は新しいスタッフとして2名の先生を迎えました。今回は、新スタッフとなった2名の先生と昨年度途中からスタッフとして加わった1名の先生を紹介します。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

富永 大悟 先生 (香川大学教育学部研究員)

昨年7月から、「すばる」でお世話になっています。昨年度は、香川県外からの赴任で気候の違いや新しい業務に戸惑うことばかりでした。これからも、一人一人の子どもたちに合った指導・支援を続けていきたいと考えています。

秋山 真由美 先生 (現職教員長期研修生)

香川東部養護学校より、内地留学生として1年間お世話になります。特別支援学校の視点も取り入れ、子どもたちや保護者のみなさんが個別指導の有用性や大切さを実感できる指導・支援を味わっていただけるよう頑張っていきたいと思います。

楠 幸恵 先生 (現職教員長期研修生)

まんのう町立長炭小学校より、内地留学生として1年間お世話になります。個の学び方に沿った「すばる」の個別指導について、日々多くのことを勉強させていただいております。子どもたちの困っていることが少しでも改善できるように努力していきたいと思います。

今年度(第1期～第3期)の個別指導は定員を満しましたが、教育相談や心理検査等はお受けしています。詳しくはHPをご覧ください。<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~tokubetsu/>

幼稚園より

土曜メンテナンス

5月23日（土）、土曜メンテナンス活動として、園庭の草抜きや砂場の土の入れ替えや保育室の掃除が行われました。

お父さん、お母さんをはじめ、おじいちゃん、おばあちゃんたちの協力を得ながら子どもたちと一緒に作業し予定時間より早く全てを終えることができました。

きれいになった園庭や砂場で迎えた4日後の保育参観では、元気いっぱい遊ぶ子どもたちの姿を見ることができました。ご協力ありがとうございました。



砂場に新しい砂を入れたよ



ピカピカになったよ！

クラス新聞作成

年2回「クラス新聞」と題し保護者や子どもたちのことをより知ってもらうために、好きな物や一生懸命取り組んでいることなどを書いたメッセージを、新聞係が取りまとめて発行しています。

新聞タイトルやレイアウト、掲示物のデザイン等も楽しい仕上がりになるようにみんなで相談して決めています。出来上がったみんなのメッセージを親子で読むことにより、子どもたちや保護者の知らない一面を発見することができて、共通点を見つけることが出来ました。「クラス新聞」のおかげでより一層、お友達との距離を縮めることができたのではないのでしょうか？

青組

赤組

黄組



小学校より

～お助けママーず～

今年度からの新しい取り組みとして、5,6年生の家庭科の調理実習や裁縫、ミシン等のサポートをする『お助けママーず』ができました。新しい取り組みにもかかわらず、22名ものお母さん方が登録してくださいました。

サポートと言っても、お手本を子どもたちに見せるというのではなく、よりよい環境でスムーズにできるように「見守る」という活動なので、先生方と協力して子どもたちを盛り上げていきたいと考えています。



～土曜クラブOYG（おやじの会）発足～

附属にも本格的なおやじの会（パパでもママでもOK）が発足しました。初会合には30名近いおやじが集まり、今年は低・中・高学年のおやじチームがそれぞれ子どもたちの盛り上がる行事をやっていこうということになりました。OYGからの行事案内にも、お気軽にご参加ください。また、いつでもスタッフとして参加できますので、楽しいおやじ仲間になりましょう。

中学校より.....

ウエルカムランチ

4月22日（水曜日）の松韻会総会後に土曜クラブの活動として、新一年生の保護者を対象に、55名が参加して「ウエルカムランチ」を中学校の家庭科室にて行いました。初めにクラスごとにお弁当を食べたりケーキを頂いたりしました。その間に中学校生活のダイジェスト版の映像を見、その後保護者の自己紹介や子どもの近況などの情報交換を行いました。また、中学校より校長先生、副校長先生、教頭先生および一年団の先生方もご参加いただきました。初めての中学校生活や新たに附属学園の一員となられたことへの不安を和らげるとともに、保護者間の絆を深める交流を行うことが出来ました。



坂出市PTAソフトバレーボール大会

6月28日（日曜日）に坂出市PTAソフトバレーボール大会が開催されました。とはいっても本原稿作成時は大会前であり、幼稚園・小学校・中学校合同で毎週金曜日に中学校の体育館にて練習を行っているところです。昨年はお父さんチームが優勝いたしましたが、今年はどうなるのでしょうか。次回の「学園だより」にてご報告いたします。

特別支援学校より.....

四附連参加

4月24日（金）、附属高松中学校で行われた、四国国立大学附属学校連盟・四国国立大学附属学校PTA連合会の総会ならびに研究集会・協議会に参加しました。

総会後の特別支援学校部会では、主な協議題として、「PTA活動について」情報交換、意見交換をしました。

各校ともに、少ない人数の中でのPTA運営、PTA活動には、苦労もありながらもよりよいPTA活動をめざして、試行錯誤しながらたくさんの工夫をされていることや、各県それぞれの地域ならではの特色も知ることができ、今後のPTA活動において、とても勉強になりました。

また、助言者としてご参加いただいた、井上様（全国国立大学附属学校PTA連合会理事）と、神余様（全国国立大学附属学校PTA連合会監事）からも大変貴重なご意見をいただきました。

その後の情報交換会でも、各県の保護者の方と交流をさせていただき、いろいろな情報や、悩み、解決方法、工夫など、たくさんお話することができました。

部会での司会進行という大役に不安もありましたが、本当に有意義な会となり、四国国立大学附属学校PTA連合会として、さらに絆を深めるよい機会になったと思います。

今後も、こういった交流を大切にしていき、子どもたちのために、あたたかい輪が広がる事を期待しております。



分科会の様子



情報交換会の様子

楽しく心に残る4日間でした

5月8日(金)～11日(月)まで、「Best of story ～心に刻め! 僕らの思い出の1ページ～」というテーマのもと、屋島集団宿泊学習を行いました。野外炊事やカッター、フライングディスクゴルフ、魚釣り、ウォークラリー、キャントルサービスなどの活動に皆で協力して取り組みました。屋島では、自分たちでしおりを確認し、仲間と声をかけ合って先を見通した行動もできるように、これらの経験はその後の学校生活に生かされています。「good」の集団で満足せず、「best」な集団を目指す2年生の今後が期待できます。



よりよい生き方について考えました

6月14日(日)に弁論大会が行われました。「社会を明るくするために」というテーマについて全校生が書いた作文の中から、各クラス1名が代表者として発表し、3年生の赤垣佑馬さんと、1年生の安田早希さんが学校代表として選ばれました。赤垣さんは「明日会えなくなるかもしれない」、安田さんは「障がいの差別」という演題で自らの体験をもとに、人間の尊厳や家族との絆などについて、自分の言葉で主張してくれました。



【赤垣佑馬さん】 【安田早希さん】

また、弁論大会終了後には親子セミナーを行いました。作花典男先生が「主役は、君だ!」という演題でご講演ください、「自己超越」の欲求について次の四つを紹介してくださいました。

- ① 自分の言動によって、人が喜び姿を喜ぶ心
- ② 自分の持っている、限りある時間や能力を無償で他人に提供すること
- ③ 自己実現以上の強烈な、しびれるような喜び、幸せが得られるということ
- ④ そして、何よりも、自分で自分をほめてやれる喜び、幸せを味わえるということ

この自己超越の心を耕し、育て、実践することが、長い未来を有する幸せ探しの一つの目標だと確信されていること、自分の人生劇場で自分はたった一人の主役なのだから、「よくがんばった、えらいぞ」と自分をほめてやれたらどんなにいいかなどとお話くださいました。

今回の弁論大会や親子セミナーを通して感じたり、考えたりした【作花典男先生】ことを今後の生活に生かし、人生の主役をすてきに演じていきましょう。

中学校

坂出駅長さんからお話

5月19日の授業参観後、JR通学者約140名とその保護者の方を対象に坂出駅の敷内駅長さんよりお話がありました。これは、安全に通学してほしいという願いから、松韻会安全委員会の呼びかけで行ったものです。



駅長さんからは、「駅のホームではふざけない」「傘を振り回さない」等のお話があり、小さい子どもたちも真剣に聞いていました。自他の命を守るために大切なことです。駅長さんや安全委員会の方々の思いに応えるためにも、今後気を付けて通学してほしいと思います。

非行防止教室



6月23日、香川県警よりスクールサポーターの鎌田さんに来ていただき、4年生を対象に非行防止教室を実施しました。

小学生段階の犯罪では窃盗(万引き)が最も多く、その見張りをしただけでも罪になること、軽い犯罪を繰り返しているうちに大きな罪を犯してしまうこと、大切な家族や周囲の人々を悲しませる結果になること等を分かりやすく話していただきました。真剣に聞いていた子どもたちは、「絶対に万引きはしない」と誓うとともに、友達に誘われたときの対処法も具体的に学んでいました。

小学校

特別支援学校



「スクールバスが新しくなりました!」

今年度4月より、12年間お世話になったスクールバスから新しいスクールバスに替わりました。新しいバスには、昨年度、創立40周年記念の際に誕生した学校のキャラクター「やまちゃん ももちゃん」のステッカーが貼られていて、みんなに大人気です。



児童生徒の登下校や校外学習の安全な移送に活躍してくれています。

「ティーボール大会用ユニフォームと応援用キャップを新調しました!」



40周年の節目に、ティーボール大会用のユニフォームと応援団の生徒用帽子をPTA会計で購入しました。



5月の林田運動公園で行われたティーボール大会で初めて披露されました。真新しいユニフォームに身を包み、入賞には結びつきませんでした。選手全員、精一杯のプレーができました。

応援団もみんなで応援用のオレンジの帽子をかぶり、応援グッズを手にしっかり声援や拍手を送ることができました。



幼稚園

「食」～育てる～味わう～楽しむ

子どもたちと「食べる楽しさ」を味わうことを生活の中で大切にしています。「食」＝「命」であり、自分の心や体づくりにつながるからです。3歳児では、小学生からもらったさやえんどうと出会い、「こんなに入るとる」「赤ちゃんがおる」と豆の様子に驚きや喜びの声が飛び交いました。豆の姿を目にして、いろいろ発見。手ざわり、におい、形や色、味で、全身の感覚でかわりあうひとときでした。先生の作ってくれた豆ごはんのおにぎりをみんなでいただくときには、「おいしいね」の笑顔がいっぱいに広がりました。



4歳児では、みんなでキュウリ、トマト、ピーマン、オクラ、ナスを植えています。大きくなってくるとの楽しみに水をあげる姿が見られます。「ナス、大きくなったよ」「オクラ、採れたんで」と、友達や先生に早く伝えたくてたまらない、食べたいなという気持ちが弾んだ声に込められています。みんなで収穫した野菜はみんなのアイディアでいただくことを楽しみにしています。



5歳児は昨年から育ててきたジャガイモで「カレーパーティー」を開くことに一人一人が思いをもって、かかわっていく姿がありました。一生懸命野菜を切ることで、小さな友達に配ってあげること、サプライズを考えることそれぞれの思いが繋がっていく中で、「ぼく・わたしたち青組だもん」という自信が少しずつあふれている姿をうれしく思います。



編集後記

サッカー女子ワールドカップにおける“なでしこジャパン”の活躍で、蒸し暑い梅雨時期の日本に心地よいそよ風が吹いているようでした。個では到底かなわない相手の強く速い攻めに複数が連携して対応し、状況に応じて試合中にも作戦を変えていました。また、何よりひたむきに最後まで走り切る姿に感動を覚えました。

我々附属坂出学園も、個々で見るとできることは限られています。しかし、この「学園だより」を含め、様々な場での異校種連携は他にない強みだと考えます。大学改革に柔軟に対応し、学部とも協働しながら全力で取り組んでいく所存です。

保護者をはじめ関係の方々、今後ともご協力、ご支援をよろしくお願いたします。

発行年月日：2015年7月17日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

倉野 晴代 (附属幼稚園)

樽本 導和 藪内 雅昭 (附属坂出小学校)

小林 理昭 可児智恵子 (附属坂出中学校)

合田 卓生 有家由佳子 (附属特別支援学校)